

中学校の先生がんばれ！

年度当初にあたり、ぜひ、してほしいことを書きます。

それは、「一年間を見通しておいてほしい」ことです。年間指導計画にある内容を深めてほしいのです。いつ、何をどれだけの時間をかけて教えるのかということだけではなく、

- ・チャレンジしたいことをいつやるのか
- ・そのための準備をいつから始めるのか
- ・何を用意しておけばよいのか

の作戦を立てておいてほしいのです。

例えば、「今年は探究的な授業に取り組もう」と決意したとする。

- ・課題研究を2年2回取り組もう
- ・6月末と11月初めに行おう
- ・生徒へのお知らせ（何を、何のために行うのか）を4月のオリエンテーションで行う。
- ・「明日、課題研究するよ」ではなく、単元の途中で早めに生徒に伝えて課題を十分考えさせておく。
- ・発表は紙か、スライド2枚程度か

などなど…

思いつきの飛び込み授業もたまにはあるかもしれないが、限られた指導時間、限られた生徒の学習時間を大切にかつ充実して使ってほしい。3月には納得した、指導技術が高まった1年になってほしいと切に思う今日この頃である。

2004年3月7日発行 石川県教育工学研究会会報66号より（40歳の頃書いたものです）

中学校の先生がんばれ！

組織担当次長・金沢市立西南部中学校 嶋 耕 二

年度末を迎え、各学校においては、学校自己評価や学力調査の結果等から問題点を洗い出し、来年度の教育課程や研究の準備にかかっていることでしょう。

中学校では、学力向上をめざし、教育課程や指導法の改善がさかんに行われています。今までコンピュータとは縁がなかったかのように思っていた先生が、積極的にコンピュータ教室で授業を行っています。

極論かもしれないが、他校種に比べ中学校の授業研究には積極性が見られなかった。（と感じている。）何かにつけて「研究より生徒指導が大切だ。」ということで「研究」という活動を避けてきたように思えてならない。しかし、昨今の先生方の取り組みを見る限り、その考えに修正を加えなくてははいけないと感じている。

中学校の先生は、「小学校で育ててくれた子どもたちを中学校ではこのように育てています。」「～な問題点があったのだが、～のような工夫

で、～な改善が見られた。」と、ぜひ自分の実践を発信してほしいと思います。

もし、「研究」という単語に違和感を感じておられるなら、「教育目標をいかに達成するか、そのための実践そのものである。」と思えば気楽ではないだろうか。かつて、先輩の先生に「日々の授業が研究授業だ。」と教えられた。そのことにうなずけるような気がします。

先生が生徒のことを考え、一生懸命に準備した授業には、たとえその1時間だけでも、問題行動を起こす生徒が授業に顔を覗かせた経験が1つや2つあるはずです。ぜひ、第三者（大学の先生や審査委員、助言者など）にその実践を評価してもらい、指導技術を高めてもらえたらと願っています。

そのためにも、本研究会のものを含め、研究発表会やコンテストなどを積極的に利用してもらえたら幸いです。